

## 当院における特発性心室細動症例に対する カテーテルアブレーションの検討

中野 誠 福田浩二 近藤正輝 瀬川将人  
平野道基 千葉貴彦 下川宏明

当院では2006年1月より2014年11月までに、特発性心室細動(IVF)5症例(Brugada症候群(BS)3症例, 非BSのIVF2症例)にカテーテルアブレーションを施行した。BSの2症例では、右室流出路(RVOT)起源と考えられる心室期外収縮(PVC)をトリガーとする心室細動(VF)が確認され、RVOT前壁側に比較的広範に遅延電位を認めた。同部位の焼灼により2症例はVF頻度減少、1症例は再発なく経過。残りのBSの1症例は三尖弁輪起源と考えられるPVCをトリガーとするVFを呈した。三尖弁輪には遅延電位は確認されず、pacemapを指標に焼灼後、VF再発なく経過。一方IVFの2症例のうち、1症例はRVOT起源、もう1症例は右室下壁起源と考えられるPVCによってVFを認めた。両者とも遅延電位を認めず、pacemapを指標に焼灼後、VFの再発なく経過。本検討から、BS症例ではPVC、VF発生に伝導遅延の関与が考えられ、非BSのIVFとは異なる電気生理学的特徴が示唆された。その一方、BSのなかには明らかな伝導遅延を呈さずにPVC、VFを呈する症例も存在することから、今後のさらなる検討が必要と考えられた。

**Keywords** ●特発性心室細動  
●カテーテルアブレーション

東北大学大学院医学系研究科循環器内科学分野  
(〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1)

*Radiofrequency Catheter Ablation in Patients with Idiopathic Ventricular Fibrillation : in Case of Tohoku University Hospital  
Makoto Nakano, Koji Fukuda, Masateru Kondo, Masato Segawa, Michinori Hirano, Takahiko Chiba, Hiroaki Shimokawa*